

プレイエルとショパンの物語

早川奈穂子

フォルテピアノリサイタル

7/20 2021
tue

open 18:30 start 19:00

兵庫県立芸術文化センター
神戸女学院小ホール

CHOPIN

バラード全曲

アンダンテスピナートと華麗なる大ポロネーズ

ノクターン No.8, No.18

マズルカ op.6-1, op.6-2

練習曲 op.10-12 “革命”, op.25-2

前奏曲 op.28-15 “雨だれ”



ショパンが所有したプレイエルと同型のピアノで聴くショパン

©Terumasa Honda

1845 F. Chopin



プレイエル
1845年製
Das collection



全席自由

一般 ¥3,000 学生 ¥2,000

◇芸術文化センターチケットオフィス ◇イープラス ◇PassMarket
4歳以下のお子様のご入場はご遠慮願います。

チケット・お問い合わせ
ミュージック・アート・ステーション
06-6836-7067

主催：Harmonie des Fleurs 後援：ポーランド広報文化センター
一般社団法人全日本ピアノ指導者連盟(ピティナ)
大阪音楽大学<幸楽会>

ショパンは、少し柔らかくヴェールがかった様な銀の様な音色の
タッチの軽いこのプレイエルのピアノを
とりわけ愛用していた
－フ란ツ・リスト

このコンサートでは1845年製のプレイエル(No.11457)が使用される。プレイエルはショパンが最も愛したフランスのピアノメーカーで、晩年はこの楽器と同型のプレイエルで作曲していた記録が残っている。このプレイエルは英国王立音楽院博物館の名誉理事長Christopher Nobbs氏によって選定され、David Winston氏によって修復された。Winston氏はCobbe Collectionにあるショパンが晩年所有していたプレイエルや、ベートーヴェンが使用していたBroadwood、またイギリス王室所有のエラールの修復も任されたイギリスで信頼の置かれている修復家。また2019年には現在英国王立音楽院博物館やスウェーデン王室、ヨーロッパの著名古楽演奏家達のピリオドピアノコレクションの調整も担当しているMichael Parfett氏が来日、このプレイエルの調整を調律師阿部秀明氏と共に行った。ピアニストの早川奈穂子は現在日常的にプレイエルを弾く環境にあり、モダンピアノとは全く異なる感触と音に毎日触れることにより、新たな発見、価値観の変化に満ちた日々を送っている。プレイエルによるショパンの音楽、当時の音のニュアンス、高低バランス、余韻の違い、ショパンのペダル記譜に従ったプレイエルでの効果・・・CDでは聴くことができない空気を通した演奏をご堪能下さい。

私は気分のすぐれない時はエラールのピアノを弾きます
このピアノは完成された音を出すからです
しかし、身体の調子が良くて自分だけの音を出してみたい時は
プレイエルのピアノが必要なのです
－フリデリク・ショパン

演奏 *Naoko Hayakawa* 早川奈穂子

大阪音楽大学卒業(橋野豊子氏に師事)。学内では演奏家のための特別選抜コースにて野島稔氏に師事し、在学中よりコンクールに多数入賞。学外ではBarry Snyder氏の元で数年に渡りロシア奏法を学ぶ。クールシュヴェル国際音楽アカデミー(フランス)へ渡り研鑽、現地でのコンサートに出演。その後モスクワ音楽院セミナーにてディーナ・ヨッフエ女史に度々彼女の元への留学を薦められ、数年間レッスンを受ける。岸本雅美女史の元ではバロック・古典作品の演奏法を特に学び、演奏と理論の礎に多大な薫陶を受ける。2001年ノーヴィ国際音楽コンクール第1位を受賞。2006年ポーランド国立ショパン大学にてテレサ・マナステルスカ女史の元研修し、ポーランドにおけるショパンの伝統的な演奏法を学ぶ。その間ウィーンやドイツ・イタリアで学んだ様々な声楽家・管弦奏者の指導下でのレッスンピアニストを長年務め、声楽的・他楽器の見地からの演奏法にも触れる。現在は全国各地でリサイタルや多数のコンサートに出演。京都市交響楽団メンバーとも室内楽共演を重ねる他、協奏曲ソリストとしても各オーケストラより招聘され出演する。近年は共演中の創作演奏をきっかけに作編曲の依頼も増え楽譜出版に携わり、編曲作品はCD収録やコンサートでよく使用されておりラジオでも取り上げられる。楽器店での楽曲レクチャーやコンサート、新響楽器コンクールやヤマハヤングピアニストコンサート審査員を務める他、東北や熊本での復興支援コンサートにも長年関わり、心と体・脳・自然・哲学・教養、豊かな視点で後進指導にも携わる。2017年春よりピリオド楽器(プレイエル1845年、エラール1875年、ロングマン&ブロデリップ1785年他)に偶然の重なりで出逢う。試弾を聴いていたイギリス人楽器オーナーによりレコーディングプロジェクトにスカウトされ、従来よりショパンに関心の深かった彼女はプレイエルにも魅せられ、日常的にそれらの楽器を練習できる機会に恵まれた。現在CDを制作のため18～19世紀のピリオド奏法をパリ在住のSally Sargentの元で学び、更なる理解を深めている。2019年夏にはイギリスの5つのピリオドピアノコレクションを訪れ、約70台のピリオド楽器(1600～1800年代)を実際に試弾。その際試弾を聴いていたFinchcocks CollectionオーナーBurnett夫妻によりイングランドでのFinchcocksサマーコンサートシリーズに招待され出演予定。(延期中) <http://naokohayakawa.com>

- | | |
|---------------------------|---|
| ◇ 芸術文化センターチケットオフィス | 0798-68-0255 (10～17時 月曜休み) |
| ◇ イープラス | https://eplus.jp/ |
| ◇ PassMarket (スマホチケットで入場) | https://passmarket.yahoo.co.jp/ |
| ◇ ミュージックアートステーション | 06-6836-7067 |